

第2回 養父市振興計画審議会 議事要旨

日時 令和3年6月2日(水) 13時30分～16時00分
場所 八鹿公民館 2F 展示室(およびオンライン会議)
出席者 委員 現地: 畑正夫(会長)、福井啓子(副会長)、秋山卓寛、上垣秀和、
片岡高市、小泉一輝、佐々木秀行、大封健太、栃尾英一、中島高幸、
松田佳苗、宮本早紀、宮本裕美
オンライン: 西谷秀和、田渕和香菜
事務局 経営政策課 田村亘、岡山慎、渡邊宰
欠席者 委員 村上裕樹

I. 進行状況等

1. 開会
2. 議題等
 - (1) 養父市まちづくり計画(仮称)「基本構想」について
 - (2) 養父市まちづくり計画(仮称)「基本計画」について
3. その他
4. 閉会

II. 議事等

養父市まちづくり計画(仮称)素案について、第1回審議会での議論をふまえ、市経営政策課(事務局)から基本構想の素案策定の経緯等について詳細説明、基本計画、推進体制等の説明がなされた後、意見交換が行われた。主なやりとりは以下のとおり。

- (委員) PDCA サイクルに基づいてこれまで取り組んできた結果の詳細について、このまちづくり計画に明記されていないが、どういうことなのか。
- (事務局) 総合戦略を策定した平成27年以降、毎年度検証委員会による検証作業を行い、ホームページでの公表を行ってきている。本計画についても、これまで取り組んできた総合戦略の性格を引き継いだものであるため、引き続き、PDCAサイクルに基づく効果検証を行っていくこととしている。
- (副会長) ただいまこの素案づくりのなかで、アンケートやワークショップなどを実施してきたと説明いただいた。たくさんの方の思いが込められているものであるのに、私たちには何を求められているのか。
- (委員) これを起点に前向きな議論をしましょうということで集まっていると思う。
- (会長) どんな意見が多くて、どう反映させたか。これまでの意見にも共感できる部分もあるかもしれないし、そうではないという部分もあるかもしれない。宿題としてどこにどんな意見が多くて、それがどう「つながり」に繋がっていったかという話を整

理いただきたい。

- (委員) これまでの過程について、職員ワークショップのなかでは肯定的な方も否定的な方も入って議論していると思われるが、市民ワークショップはやる気のある方が多いように思う。そうじゃない方の御意見もアンケート等から拾ってきて、できたら聞かせていただきたい。良い意見だけでなく、悪い意見も聞きたい。
- (会長) 貴重な意見ありがとうございます。課題として残っているような点についても示していただけたらと思う。
- (委員) 最終的には市民の方に理解いただけるような計画にする必要がある。そのために、基本構想についてはイメージだけでも構わないかと考えるが、基本計画については数値がないと何をイメージしていけばよいのか分からない。アンケート等を通して現状をとらえられて、そこからこうあるべきだという目標を立て、それを実現するための計画である。数字を用いながら理論的な整理をしていただける方が、多くの人が理解できることにつながると考える。
- (事務局) 基本計画については数値目標が必要だと考えている。
- (会長) 数値にこだわりすぎるのも良くないかもしれないが、よく考えて設定頂きたい。
- (委員) 具体的な居空間の「養父市に対して市外に住まう市民が持続的につながりを持ちたくなる場」という表現について、市内の住民目線での書き方を検討していただきたい。住民が一番大切だと考える。
- (委員) 物理とデジタルの融合によるつながりの創出について、当然、交通や買い物などを始めとした利便性を高めることも必要であるが、それだけでは豊かなまちづくり、住みやすいまちづくりにはならないと考える。いかに豊かな心を持つ人材が養父市に住んでいるかという点が大切であり、たとえ人口減少が進んでも、豊かな心を持つ人がいれば、理解しあい、つながりが生まれるまちづくりになると考える。教育的な部分も含め、人づくりをもう少し強調した計画としていただきたい。
- (委員) 3-3「安心安全のインフラ整備の推進」について、アンケート結果でも防災に関する意識は高くなっているが、行政が市民を守るという視点よりも、市民一人ひとりの意識を高めるような活動を行っていく方が大切であると考えている。SDGsの推進においても一人ひとりの意識を高めることが必要となってくるため、そのような活動を推進していくような書き方が望ましいと考える。
- (会長) 柱③「公共」の部分に関連して言えば、3-1の括弧書きで産業支援と書いてしまっているため、市民同士の価値創造というのが見えなくなってしまう。
- (委員) 基本計画で細分化されているものをみると、経済的な活性化、取組という部分が薄いように感じる。現実的な今の生活の問題として経済的な部分は大きいため、もう少し盛り込んでいった方が良いのでは。
- (会長) 重要な視点であり、やはり生業をどうするかということについてはしっかり考えないといけない。この地域で持続していく仕事とはどういうものかということを考えて入れた方が良いのかもしれない。

- (委員) 就労の部分について、農に力を入れているのはよく分かるが、誰もが、特に障がいのある方や高齢者などがしっかりと養父市で働けるようにすることが大事になってくるのではないかと。
- また、空き店舗や空き家の増加などの課題について、様々な事情もあると思うが、そういったものを有効に活用できるようになる仕組み作りが必要と考える。
- (委員) 農林業の推進ということですが、農業は優遇されているが、林業の方はあまり恩恵がないように感じている。現在は市の方で林業活性化センターが立ち上がっており、様々な林業形態へのサポートも進んでいるが、やはり林業といえば森林組合というイメージをお持ちの方も多くいるのが現状。今後は様々な面からPRも必要と考えている。
- (会長) 林業については新しい動きもあると聞いている。産業としての林業の在り方についても、エネルギーの話と絡ませることもできるかもしれないし、幅広く捉えていくことについて書いておくことが重要なかもしれない。具体的に新しい動きがあるのか。
- (委員) 若い世代がどんどん参入してきているが、大きな規模まで発展してはいない。山を守れば災害対策にもつながるということで、同じ気持ちをもった若い人たちが増えてきていることは有りがたいと感じている。
- (会長) そういった若い人たちのメッセージを生かせるよう、その人たちに話を聞くなどを行い、何かアクションを起こしていくことが必要かもしれない。
- (委員) 人口減少が一番の課題だと考える。少子化対策の取組を進めるなかでも、人口を増やすことの難しさを感じてきた。出ていった人が帰ってきて、それが人口減少を食い止めるという取組みを施策のなかに入れていただきたい。人口流出が仕方ないことではなく、食い止める施策を明記することで、人口減少をなんとかする姿勢を表すことにもつながるのでは。
- (会長) 全体として地域が良くなるから人が来るという考え方で、全市的に人口減少をどうするかということが書いてあれば、それをきっかけにして取組に繋がってくるかもしれない。
- (委員) ICTを活用したまちづくりを展開するなかでPCやスマートフォンの普及が当たり前のこととして考えられており、10年20年先には今よりも普及していることが想定できるかもしれないが、それでもやはり取り残されている人がいる。そういった方々への支援も含めて考える必要があるのでは。
- (会長) 格差の問題のひとつであり、とても大切な視点。デジタルは活用できるところで活用していくことが必要であり、デジタルが無ければできないということではない社会をつくらなければならない。この視点もどこかに書いてほしい点。
- (委員) 「つながり」というキーワードが出ていましたが、養父市内の方とのつながりについては柱①に書かれているようなことだと思っている。養父市から出てしまった人や、養父市と直接関係のない人とのつながりという意味では、養父市から出てしま

った人については仕事がないと戻ってこられない。そこをどうしていくか。市内の企業の活性化や魅力的な職場があることを、もっと市外に向けて発信する方法をどうしていくかなど、また、全く養父市とつながりのない方とつながりを創っていかうとすると、養父市に訪れるきっかけは観光地にあると考える。魅力的な観光地づくりに加え、来た人が住みたいと思ってくれるような仕掛けづくりを、もっと観光地の方に協力してもらって、そこから発信していけたら良いのではと考える。

(会長) 観光だけでなく、それが地域づくりにも繋がっていくことをご指摘いただいた。また、つながりが非常に重要なキーワードとなっていることを改めてご指摘いただいた。

(委員) 空き家バンクという仕組みについて、都会から養父市に移住したいという方が結構いらっしゃるとは聞いているが、空き家バンクが上手く活用できないという声も聞いたことがある。もっとスムーズに住む場所が見つかる仕組みを検討すべきでは。

(会長) 最近では、リモートでの田舎暮らし相談も始まっている。これまでと比較して、なんとなく来る人よりも、はっきりと目的を持ってくる人がでてきたという話を昨年養父市の方から伺った。この辺りにも、デジタルを上手く使っていくことができるかもしれない。また、仕事も重要であり、魅力的な仕事をつくらせると言いながらなかなか魅力的な仕事がつくれなかったということも反省点かもしれない。逆に言えば、挑戦する場所をどうつくっていくか、挑戦することを支援する仕組みを作っていくことでカバーすることも一つかもしれない。この部分で一つの柱を立てても良いのかもしれないということを、今聞いてきたなかで感じている。

(委員) 人口が減っていくのは仕方ない部分もあるが、どこまで抑えられるかが大切。しかし、日本全国同じようなことも展開されているなかで抜本的な解決手段はないのかもしれない。数値目標を設定するという話もあったが、この計画に書かれている施策に直接数値目標を設定するのは難しいとも感じている。これが地方創生の突破口となるというようなものはないと考えるが、子育て環境の部分と、しっかりと働いて収入が得られる部分をどうするかは大切である。

(会長) 人口減少が始まる最初のころは、競争の時代ということでは言われた。今度は人口が減っても大丈夫なような社会をつくらうという議論に変わってきている。こういうことを考えていくと、居場所や安心して暮らすことができるまちをつくるということは大切であるが、特徴が出にくくなってしまいがちであるため、悩ましい部分である。その部分は自分の身近なまちづくりの部分に展開していかないと、先が見えにくいかもしれない。まちづくり計画では地区別の計画も考えられているため、その中に具体的なものをつくることのできるかもしれない。

(副会長) 雇用の場、保育所はどんどん充実していただきたい。介護・福祉的な面をどうするかも大切。

(会長) 分かりにくい部分というよりは、具体的にどうすれば良さそうかという点を中心にご意見をいただいた。人口減少は難しい問題であることを共有できたのではないか

と思う。そこで、まちをどうするのかということ考えたときに、自分の周りの事が反映されていないこと部分をどうするかは考えないといけないポイント。

(委員) 皆が共通して使えるプラットフォームが必要。それがあれば、全国へと発信できる。若者はテレビを見なくなってきているため、一つのプラットフォームに集中して楽しいまちであることを宣伝していくことをしないと、いくら情報を発信しようとしても難しい。全員が今までにない感覚を持ちながら、些細なことでも発信することについてまちをあげてやっていかないといけない。ここが成功したら日本中のまちが真似をする。ここから発信するんだという気概を持ってまちの皆さんがやってくれたら、まちは変わる。

(委員) 計画の冊子の見せ方について、SDGsを意識した行動は良いことだと考える。SDGsのアイコンを政策のなかに取り入れることや、イラストや写真を使うと、より住民目線のものにならないかと考える。

(委員) 10年後や30年後のまちづくりの方向性については現実的な目線をもって市民の皆様の理解を得る必要があり、今回の振興計画はそのためにあると考えている。養父市は面積も広く、集落も点在しているなかで、広域での対策には限界があり、公的サービスの質を落とさずに持続していくためには、私はコンパクトなまちづくりが必要であると考えている。大まかな方向性としてコンパクトなまちづくりを示していけるとよい。また、そういうところを丁寧に示して理解いただける計画であれば、細かい取り組みを記載しなくても良いのではないかと。

(副会長) 市民に理解していただくために、子どもの教科書にまちのことを掲載しているまちがある。養父市も歴史や政策の事を教材として使用したら子どもたちに伝わるだけでなく、その子の親や祖父母にも伝わる。そのような方法もあるのでは。

(委員) 養父市でも地域教材として副読本の作成を行っている。

(会長) 教育も大切という視点。まちづくりを担う人口は大人ばかりではない。